

特集にあたって

大阪医科薬科大学整形外科学教室 根尾昌志

最近の脊椎脊髄手術の発展は目覚ましく、何でもできるような錯覚に陥ります。この背景には、脊椎脊髄外科の診断、手術技術や器具の目覚ましい進歩があることはもちろん、内科学、麻酔科学、ICU 管理、リハビリテーション科学など関係する医学領域の発展も大きく寄与しています。しかし、それに伴い手術にあたって考慮しなければならないこともどんどん複雑化しています。患者側の要素としては、超高齢化、複雑な内科的背景、手術に対する過剰な期待などが挙げられますし、手術が高度になればなるほどそれなりの重篤なリスクが伴ってくることも事実です。脊椎脊髄外科医はこれらに対して入念な準備や患者説明が必須で、それでも紛争につながることもあるためそれを防ぐ努力も必要です。

現代の脊椎脊髄外科手術にどう対処するべきか、この特集号では、手術手技の解説ではなく、脊椎脊髄手術を計画するとき、周術期管理・対応で困ったとき、すぐに手に取って調べられるような冊子とすることを目的といたしました。各分野のエキスパートに、術前準備や患者説明の仕方、術中執刀医や助手として注意すべき点、術後管理の留意点を中心に執筆をお願いし、高齢者や小児、スポーツ選手、慢性腰痛患者、交通事故・労災絡みの患者など、患者の特徴に応じた対応の仕方についても解説していただきました。医師だけでなく、法律家の先生にもご執筆いただいております。

この冊子によって、比較的脊椎脊髄手術の経験の浅い先生方が、紛争のもととなる準備不足や説明不足を少しでも回避できることを願っています。また、「私の術前説明書」や「私の手術記録」などは、異なった文化や背景をもつ先生方が執筆されており、それらの考え方は若い先生方にとってとても勉強になるはずです。一方、経験を積み、自分なりのやり方を確立されている先生方でも、普段は減多に目にするものないほかの先生の術前説明書、手術記録、周術期管理の裏技などをご覧になることによって、自分のやり方をさらにブラッシュアップできると考えます。

通り一遍の教科書には書いていないことをできるだけ集めてみました。脊椎脊髄外科に携わるすべての先生方が、ちょっと迷ったとき、気になったとき、気軽にめくってそれぞれの立場でご自分の参考にしていただける「ハンドブック」となれば、企画者としてこの上ない喜びです。